

日体豊魂

日本体育大学
東京都同窓会会報

第21号

平成29年5月1日発行
発行者 東京都同窓会長

高田 幸一

平成二十八年度を

振り返って

会長 高田幸一

東京都同窓会の皆様、一年間
本会の活動にご理解・ご協力い
ただき心より感謝申し上げます。

日本体育大学は、百二十五年
を迎え世界一の体育大学を目
指して、夢を現実にするため
様々な改革を図ってきました。
そして教職員や学生、施設と
も名実とも整い進化している
状況を私たち地元東京都同窓
会は実感してきました。

大学が大きく前進し、学生の
意識も大きく変化している中、
東京都同窓会もこの変化を真
摯に捉え、大学、全国同窓会や
学生支援活動をしてきました。

二十八年度報告として、

(1) 関東・北信越地区連絡協
議会の東京開催を無事終了で
きました。準備等のご協力あり
がとうございました。

(2) 総会で長年の課題が解決
できました。この教訓から、組

織運営が重要であると考えま
す。同窓会の課題をしっかり捉
え改善し、大学との連携を報告
できるよう、情報の共有、確認、
開示を今後も確実に行います。

(3) 教育支援委員会は、小橋
川委員長を中心に大学にお願
いして、教育実習講師の呼称を、
教育実習指導担当特別教授に
変えて頂きました。小学校の教
育実習も加わり、実習指導職務
は、自己研鑽と研修がさらに必
要となりました。

教員採用試験の学生支援も
一次対策講座五回を実施、二次
対策も協力支援しました。皆様

に協力いただき、本会の主たる
活動として前進してきました。

(4) 今年度、日体教学舎の発
表会に参加しました。将来教員
を志望する学生はともて意欲
的であり、私たち自身の研修と
ともに大変勉強になりました。

(5) 広報委員会は角杉委員長
が中心となり、ホームページを
立ち上げ、念願の情報発信が開
始されました。大学、学生、地
域社会にも、同窓会活動に理解
参加を促せます。

二十八年度は、同窓会活動に
参加して「元気をもらった!や
って良かった」という強い気持
ちの持てる運営を目指してき
ました。新たな会員増強のため
教職員や公務員(警察官、消防
官、自衛官)、企業関係の同窓生
の同窓会への参加を呼び掛け
が急務です。企業内の日体卒の
集まりがゆるやかにできてい
ますが、東京都同窓会活動の参
加を要請しても活動内容の理
解と魅力がないと参加しても
られない状況です。再度、本会
の使命、目的をしっかりとらえ
た活動と情報発信が重要であ
ると考えています。

二十九年度には、先達の英知
を生かし、HPと広報誌「日体
魂」を活用し、きめ細かい情報
を発信し、大学・全国同窓会・
保護者会・他の団体との連携を
進めていく所存です。

平成二十八年度

教員希望者向け

春季宿泊研修報告

体育学部教職教育研究室

准教授 松平昭二

前年度に引き続き、二十八
年度も「教員希望者向け春季宿
泊研修」を国立オリンピック記
念

青少年総合センターで実施し
た。研修期間は三月十四日から
十七日までの三泊四日である。
この研修のねらいは二つある。

一つ目は「切磋琢磨してお互
いに自己を高め合える“仲間”
をつくる」こと。そして、二つ

目が「教育課題等に理解を深め、
その解決の在り方を学ぶ」こと
である。今年度も、六十名の定
員を上回る応募があり、日体大
生の教職に対する興味・関心、

意欲の高さに感心させられた。
昨年度との大きな相違点は、研
修期間を延ばしたことである。
これは、昨年度の反省を踏まえ、
研修内容のさらなる充実を図
るためである。具体的には、東
京都同窓会を主とした本学同
窓生の方々に講師に招き、個々
の学生に応じた個人面接や論
作文指導、個別相談の時間を多
く設けた。特に、個人面接と論
作文指導については、本番さな
がらの緊張感のある中で行っ
ていただいた。これらは、教員
採用試験の二次試験対策を意
識してのものでもある。

このほかにも、試験に臨む姿
勢や勉強法、心構え、グルー
プ協議、集団討論、模擬授業等
を実施した。教員を目指す仲間
たちと教育課題を共有し、その課
題解決に向けた話し合いを重
ねることで、自分自身の考えを
整理し、それを相手に理解でき
るように伝えるという段階的
なアクティブ・ラーニングプロ
グラムが組み込まれた研修で
ある。

グループ協議では、校種別に

分けたグループを作り、それぞれに与えられた教育課題について担任または養護教諭としてどのように対応するのかを話し合う。そして、協議した結果を模造紙一枚にまとめ、発表する。これについては、「発表内容」と「発表の仕方」、「模造紙の完成度」の三観点において、参加者全員による評価をし、一位～三位の表彰を行った。全てのグループが明快かつ個性的な発表を行い、他のグループの発表を見聞きすることで、学生の理解がより深まった。

また、集団討論については「議論するグループ」と「審査するグループ」を交互に体験させ、より採用試験に近い場の設定を工夫して、緊張感のある雰囲気を作り出した。

論文作文においては、東京都同窓会の講師の方々に加え、昨年同様本学文学研究室の今野哲准教授に、専門的な立場から「論文文を書くにあたって大切なこと」と題して講義を頂いた。

三泊四日という短い期間であったが、多くの講師陣に支えられ、内容の充実した研修を受講できたことは、学生にとって何よりの幸せである。最終日に見せた目をキラキラ輝かし希望に満ちた彼らの表情は、この研修が大変有意義であったことを物語っている。今後は、現役で

の教員採用試験合格を考え、研修の時期を早めることも必要だと考えている。

終わりにりましたが、ご協力いただいた東京都同窓会の先生方に心から感謝申し上げます。そして、今後も大きな可能性を秘めた日体大生のために、これまで同様のご支援とご協力をお願いいたします。



教育支援委員会活動報告

教育支援委員会委員

山本 収太郎

教育支援委員会は、日本体育大学東京都同窓会規約にある「同窓生・学生の就職支援に関すること」に基づき、委員長を含め十名で活動しています。

主な支援として、学生支援センターと連携した①教育実習の特別講師として、実習生の事前指導及び巡回指導、②東京都教員候補者選考の二次対策、③日体教育学舎との連携、④東京都同窓会の委員会活動として東京都教員候補者選考の一次対策講座を開催しています。

平成二十八年年度教員採用試験の結果は、全国での現役合格者は三十八名。そのうち東京は十一名（中高四名、小学校六名、養護教諭一名）でした。期限付きは五名（中高一名、小学校四名）でした。

参考として、一次合格者は全国で八十一名（東京二十名）中高が四十三名（東京八名）、養護三名（東京一名）、小学校三十五名（東京十一名）でした。

東京都教員候補者選考の一次対策講座（全五回）には、延べ六十七名の参加がありました。東京都合格者十一名のうち五名は講座参加者と高い成果を上げることができました。

平成二十九年年度 実習生の直前指導について

平成二十九年年度・教育実習特別講師による実習生の直前指導が三月十八日（土）九時から東京・世田谷キャンパスで行われました。後藤先生から、教育実習は昭和二十七年から始まり、六十五年目を迎える。今年は全国で九百九十二名の学生が七百七十八校で教育実習を行う。実習に対する学生の意欲に温度差がある。とお話を頂きました。日本体育大学の育成する教師像として、①人間性、②社会性、③専門性を高めることが示され、改めて実習生の指導の依頼がありました。

小林先生からは、児童・スポーツ教育学部では、私大では珍しい三年・四年で二回の教育実習を各二週間程度、全国で二百七十校（東京三十二校）の小学校で実施していること。三年で行なう実習は入門編として、学校現場の実情を知り、各教科や特別活動の指導を通じて、学生自身の学びを振り返る。四年で行う実習は応用編として、一回目を発展させ、質の高い実習を目指し、研究授業が必須として位置づけられていること。二回の実習を通して学生は自信と指導力を高めることができている。特別講師の先生方には、より実践的な視点から指導をお願い

いしますとのお話がありました。
全体の打ち合わせ後は、担当する実習生に対する直前の指導を行いました。

平成二十九年度 一次対策講座に向けて

三月十一日（土）十三時から、東京・世田谷キャンパスで東京都教員候補者選考一次対策講座（全五回）事前説明会を実施しました。小橋川教育支援委員長から、本講座のねらい、開催日程、講座カリキュラムの説明、採用試験に向けた準備①受験日の確認②学習計画③学習内容等）の話がありました。参加学生は八名で、自己紹介と教員選考試験に対する決意を述べ、仲間として切磋琢磨するチーム日体大となる機会となりました。

平成二十八年年度東京都教員採用候補者一次選考講座受講者評価アンケートから受講生の課題への取組や演習を通じての課題発見など主な意見と感想の一部紹介します。

学習方法

・勉強という勉強をしておらず、長時間持続するのが苦手なため「こんな方法もある」と選択肢を知り、それがこの期間の鍵になるので諦めずにやりたい。

過去問をやるだけでなくワードをと

らえて調べて、試験を受けるだけでなく、自分の知識を増やすために勉強する。

現状認識

・準備や対策すべてに遅れを感じました。逆にやらなくてはいけないと追い込まれている状況で火が付きしました。

勉強のやり方に不安があり、方法を伺い、ためになりました。今後やるべきことを精一杯やっていきます。

一分間スピーチ

・一分で伝えたい内容を話すことの難しさを再認識しました。普段から自分の考えを意識して言葉に出していきたい。話し手のスピーチ内容を評価することも難しい。教師は評価しなければいけない立場なので、慣れていきたい。

意欲の向上

・専門教科の知識が不足しているため、集中的に取り組む。実技の練習を行わなければならぬ。東京都教育ビジョンなどを暗記。個別指導で先生のお話を伺い、もっと身を入れて勉強する気になった。

・教職教養問題と専門教養問題を解いてみて、専門の知識不足が分かりました。月曜日から実習に入りますが、時間を見つけ勉強していきます。

講演

・講演で藤野先生のおっしゃっていた、

毎日新聞を読んで足りない社会常識を身に付ける。勉強方法も理解できたので、毎日やっていく。

・長谷川先生の講演を伺って自分がやるべきことが足りないと感じたので、やるどころまでやりたい。頑張ります。

論文指導

・論文での課題、背景の工夫、実践例を増やし、精選する。筋の通った論文を書けるようにする。七十分で書き上げられるように時間制限を設けて練習する。

・数少ない論文の対策の講座で、すごく勉強になった。

・一回を除き全て参加した。本当に参加してよかった。自分がやってきたことに自信がなく結果もついてきていない。不安はあるが、自分の最大限の力を出し受ければ二次に向けて頑張る。落ちたらまた一から見直すという形で教師になる気持ちは何年かかっても思い続ける。

受講生が演習・講演を通じての各自の課題を発見して、主体的に学習に取組んでいく様子が伺えます。

平成二十九年度も、平成三十年年度採用東京都教員候補者選考の対策講座を五回開催します。講座を通して、学生が目標をしっかりと設定し、現状を明確化して、自分の行動計画を検討し、意欲を高めていけるよう教育支援していきたいと考

えています。教育支援委員をはじめとして、多くの同窓会の皆様の協力を得ることができれば成果もおのずと出てくると思います。皆様からのご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

教育実習反省協議会報告

教育支援委員会委員
牛島 三重子

平成二十八年年度の教育実習反省協議会が、十一月十二日（土）東京・世田谷キャンパス別館（日体会館）で開催された。参加者は、都同窓会長高田幸一、副会長高山士・大滝吉夫・小橋川和子、教育支援委員・教育実習巡回指導担当特別講師（四十七名中、三十二名参加）、大学から、東京都指導責任者の後藤彰教授、学生支援センターキャリア支援部門の大山茂事務長、石井砂織事務長、白田周平事務の方々が参加した。

はじめに、高田会長から、「本会は、教育実習においての鍵、核となる会。先輩方のご意見を伺い後輩のためによりしく願います」との挨拶があった。続いて、後藤教授より、「二十八年度は、学生九百三十名が全国で教育実習を行い、東京は二百名程度実施。トラブル

なく終了した。母校での教育実習のため甘えから、SNSで写真をあげるなどの課題があった。「国は教員削減策を考えている。文科省と協力し、生徒減でも教師を減らさない策を講じている。次期学習指導要領に向け、作成委員に体育の重要性を訴え、目的・意義を入れるように働きかけている。」「東京都は、四割を超える日体大卒業の教員が活躍している。本年度採用試験では、卒業後三年以内の方が合格している。OBの方々の指導の成果があった。」とお話をいただいた。

大山事務長から、「四月より教職支援センターを立ち上げ、キャリア支援と合わせ学生を支援している。都採用試験合格者は、中高保健体育四名（三名講習会参加者）小学校全科六名（養護教諭一名の計十一名が合格した。期限付きも数名合格している）」との報告があった。

石井事務長からは、「今年度から教職支援センターとなり、履修・採用試験・採用まで一括指導をしている。今後も各部署

との連携を深め、コミュニケーションのとれる教員育成を目指していく。昨年度立ち上げた、教学舎でも教員を育成している。」とお話をいただいた。

教育実習巡回担当講師から、概ね良好に教育実習はできていた。教育実習では、人間としての在り方、教員の専門性・人間性等指導した。学習指導要領を理解していない、授業のねらいが不明確、指導案が書けていない、実技や保健の授業が不十分などの課題がある。大学での指導を徹底して欲しい旨の要望が多くあった。

さらに、要望として、大学と教育実習巡回指導担当特別講師との連絡を密にする。学生の事前指導日が、東京都教育委員会の説明会の日程と重なっているため検討が必要。実習校に配布する学校案内を早く送って欲しいなども出された。

最後に次年度も教育実習巡回指導担当特別講師に教育実習を担当していただくとともに、小学校の教育実習も担当して欲しいとの話があった。

平成29年度 総会・研修会・懇親会のお知らせ

下記のとおり平成29年度総会（総会・研修会・懇親会）を開催いたします。

なお、本年度は日本体育大学東京都保護者会との共催で研修講座（予定）を行います。

1. 期 日：平成29年6月24日（土） 15：00～

2. 会 場：日本体育大学 東京：世田谷キャンパス お知らせはホームページにも掲載します。

通信連絡費への協力金のお願い

多くの方から通信連絡費への協力金を賜り誠に有り難うございました。

恐縮ですが、今年度も通信連絡費協力金として、昨年と同様に一口1,000円とし、2口以上でお願い申し上げます。2口以上何口でもかまいません。

総会に参加できない方も、総会案内に同封した振り込み用紙に記入の上送金よろしく願いいたします。

振込用紙のない方は、お手数ですが郵便局の払込取扱票に下記項目を記入の上、送金お願い申し上げます。

口座記号-口座番号 00120-1-□553506 加入者名 日本体育大学東京都同窓会

（口座番号の□は空白枠です） 通信欄に卒業年を記入して下さい。（S63卒・H23卒等）

編集後記

今年始めに公開した「東京都同窓会ホームページ」は、いかがでしょうか。まだまだ、体裁も内容も不十分ですが、皆さまのご要望やご指摘、ご指導で、よりよいホームページになるようご協力をお願いいたします。

ホームページをご覧いただくには、アドレスバー（ネットの画面の左上にあります）に
www.nittai-doso-tokyo.jimdo.com と入力してください。

多くの方がホームページを見ていただけると、検索バーに「東京都同窓会」と入力すれば、見ることができるようになります。よろしくお願い致します。

ご要望など、nittaidosotokyo@gmail.co.jp にメールをお送りください。

東京都同窓会 広報委員会委員長 角杉美恵子